



白須敏朗 著

『東日本大震災と
これからの水産業』

本書は、東日本大震災で未曾有の被害を受けた被災地の水産業について、震災発生から今日までの活動を振り返り、被災地の復旧と復興のあり方を論じたものである。執筆の契機となったのは、大日本水産会会長として震災後の現地をつぶさに訪問し、被災地の惨状を目の当たりにして、不屈の精神でいかに立ち上がるかを示したかったためである。

著者は、水産庁漁政部長、水産庁長官、農林水産事務次官を歴任し、現在、大日本水産会会長として、水産業振興の中心的役割を担っておられる。水産行政の豊富な経験を基に、水産業再生への道筋と復興のあるべき姿について論じられており、まさに復興への指針を示すに人を得た著作である。

本書の構成は、序章「東日本大震災の発生」、第一章「水産業を直撃した大震災」、第二章「三陸の水産業の特徴」、第三章「水産関係の被害とその対応」、第四章「始まった水産業再生への動き」、第五章「原発事故による放射能汚染問題」、第六章「水産物消費拡大」よりなっている。

第一章では、水産業界あげての復旧支援要請の状況が、臨場感を持って記述され、協同の力を感じさせられる内容である。著者は水産関係者から寄せられた義援金を、被災地に一刻も早く届けたいという思いから、14の被災市町を訪問し、直接手渡しし

ている。さらに、被災者との対話を通じ、再建を目指す水産関係者の不屈の決意が綴られており、被災地のために何をなすべきかという視座を与えてくれる。第二章では、被災地が宝の海であることを紹介し、地域の復興が水産業にかかっていることをコンパクトにまとめている。

第三章では、被災地への行政支援や復興に向けた第三次補正予算の要請の考え方が、わかりやすく解説されている。さらに早期復興に向けた諸課題について、一般に馴染みが薄く、理解が難しい課題を平易に解説している。特に復旧・復興に向けた問題点の指摘は、豊富な行政経験に裏打ちされ説得力のある内容である。また、震災からの復興の道筋や新たな水産業の構築について、背景や政策を含め論じている点に特徴があり、復興に携わるものには大いに参考になる。また、第四章では、水産業再生への新たな動きを、現地の一コマとして紹介し、被災地の復興に向けて希望の胎動を感じさせるものである。

第五章、第六章は著者の幅広い見識と、大局的観点にたって、震災からの復興を日本の水産業の復興につなげたいという思いが伝わる。特に、水産物の消費拡大を、被災地の復興にも日本の水産業の発展にもつなげたいという著者の信念が感じられる。

本書は、今後の水産業の復興の指針を、物語としても読める内容にしたいという著者の思いが結実した一冊であり、ぜひとも多くの方々に読んでいただきたい著作である。

——成山堂書店 2012年1月

定価1,429円(税別) 148頁——

(専任研究員 鴻巣 正・こうのす ただし)